

第6回安芸高田市総合計画審議会議事録

第6回安芸高田市総合計画審議会

日 時	2025年10月20日(月)午後3時から午後5時
場 所	安芸高田市民文化センター マルシン クリスタルアージュ小ホール
出席者	別途委員一覧参照
資 料	<p>【資料1】今後のスケジュール</p> <p>【資料2】前回審議会における委員主要意見及びその対応方針</p> <p>【資料3】第3次安芸高田市総合計画基本計画策定のプロセス</p> <p>【資料4】第3次安芸高田市総合計画序論（案）</p> <p>【資料5】第3次安芸高田市総合計画基本構想（確定）</p> <p>【資料6】第3次安芸高田市総合計画基本計画（案）</p> <p>【資料7】第3次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）</p> <p>【資料8】安芸高田市人口ビジョン（案）</p>

発言者	議事内容
会長	<p>〈今後のスケジュール〉 【資料1】</p> <p>パブリックコメントの期間は1週間でしょうか。</p>
事務局	<p>パブリックコメントについては1カ月間を予定しており、その期間中の11月14日から21日に対話集会を実施します。</p> <p>〈前回審議会における委員主要意見及びその対応方針〉 【資料2】</p> <p>〈第3次安芸高田市総合計画基本計画策定のプロセス〉 【資料3】</p>
会長	<p>私から1点。資料2の対応表の下から2つ目の重点プロジェクトが一目でわからないという指摘に対して、リーディングプロジェクトを位置付けますと書いてあるのですけども、重点プロジェクトとリーディングプロジェクトの違いがわからなかつた。ここについて説明いただけますでしょうか。</p>
事務局	<p>重点プロジェクトを基本計画の中での人口減少対策、地方創生の取組として重点的に行うプロジェクトとして位置付け、その中に4つの基本目標があり、各基本目標の中でも先導的な役割を果たす目玉プロジェクトみたいな形のことをリーディングプロジェクトと呼んでいます。重点プロジェクトの中にリーディングプロジェクトが含まれています。</p>
A委員	<p>資料3の2ページの、先ほど言われました4番の重点プロジェクトですが、これは、基本計画と位置付けがよくわからない。基本計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略の関係性というか、その辺りはどうなっていますか。</p>
事務局	<p>次の資料になりますが、資料4の1ページ目をご覧いただいてもよろしいでしょう</p>

か。右上に資料4というボックスがあり、1ページ目をご覧いただけたらと思います。この図1のところに基本計画と重点プロジェクトの関係を整理しており、基本計画、期間が4年間、市政の基本的な計画であり、基本構想を踏まえた施策の基本的な方向を支えて重点プロジェクトを示すものということで、そのなかに人口減少対策、地方創生の取組を位置付ける計画として総合戦略、これを重点プロジェクトと位置付け、このような形で整理をしています。基本計画の中に重点プロジェクトが含まれるという形になります。

〈第3次安芸高田市総合計画序論（案）〉【資料4】

〈第3次安芸高田市総合計画基本構想（確定）〉【資料5】

〈第3次安芸高田市総合計画基本計画（案）〉【資料6】

会長

それでは質疑に入る前に、先ほど申しましたように基本構想につきまして、議会でも承認をいただきました。その際にご意見が出ているようですので、少しB委員からその議会での様子等をご紹介いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

B委員

9月の定例議会において第3次市の総合計画基本構想が議決されました。特に総務文教常任委員会は、8名の委員の中、委員長を除いて7名の委員からいろいろなご意見、そして答弁をいただいております。その中で、何点か委員会の考えを皆さんにもお知らせしておきたいと思いましてお時間をいただいております。

まず、審査の中で第2次総合計画の整理についてはまだまとまっていないのではないか、その第2次総合計画に対する評価を伺うという質疑がありました。それに対して第2次総合計画の整理についてはまだまとまっていない。第2次総合計画の理念は人がつながる田園都市と掲げており、そこからどのように変わらのかは、意識した議論がなされたとの答弁がありました。

また、20年後の観光客数を250万人としているが、人口減少のなかで厳しい目標値ではないかとの質問がありました。それに対して執行部から、観光客数が上昇傾向にあるなか、神楽公演や道の駅のイベントなどで交流人口の増加を図っている。前回の目標値を超えるよう進めたいと考え、250万人としている。今後の推移を見ながら、再度設定するなど、考えたいとの答弁をされております。

また、委員より、基本構想は今後20年間の取組方針を示したものだが、この計画は今の本市の状態をそのまま考えたような構想に見えるが、考えを伺うとの質問があり、執行部からは20年後のイメージは描けていない。人口減少のなかで人とのつながりや公民連携、デジタルの活用などのポイントを項目として挙げているとの答弁でした。

質疑後の討論においても賛成討論ではありますが、第2次総合計画についての振り返りがまとまっていない点や、観光客数の指標を人口減少が加速する20年後の目標として、数値で定めるといった点において、少なからず疑問視せざるを得なかつた。あくまで大枠の基本構想については、全体を包括的に漏れなくカバーしたうえ

	<p>で、細部についてはしっかりと基本計画で定める意気込みを感じました。過去の第2次総合計画の振り返りを充実させたうえで、細部は数値ベースで根拠のある基本計画が出てくることが必然と考えられるため賛成をしました。</p> <p>また、ほかの委員からも本市の魅力で強みである毛利、神楽、サンフレッヂ広島の3要素を三矢の訓にちなみ、百万一心とともに基本構想に盛り込むことでシビックプライドや市民のまちづくりへの参加の機運を醸成することにつながるのではないかと考える。4年間の基本計画に基本構想を踏まえた施策や、基本的な方向性を示すとの答弁があり、十分計画や施策に反映し、希望の持てるまちづくりを進めさせていただくことを期待するとの賛成意見が出ております。</p> <p>以上、委員会において、また本会議においても、このことを委員の皆さんのが審査を認め議決されたものでございます。以上、議会からの報告とさせていただきます。</p>
A 委員	<p>全体を通してですが、評価指標および目標値というのが、各施策の最後についていまして、評価目標のところは、私が暮らしている地域の何々はと回答する市民の割合という評価指標を採用しているものが多く見えました。まずこの回答するものというのは、アンケートだと思いますが、どういう対象に、どのタイミングで行われているのか。アンケートの原本みたいなものというのは、すでに過去のものがあるだろうと思いますが、この辺りの情報がちょっと今、あまりにも情報が薄くて、この辺りを詳しく説明をお願いします。</p>
事務局	<p>この市民の割合というところですが、こちらにつきましてはこの総合計画を策定する過程で、市民アンケート調査を今回、実施させていただいている。その調査票の中に含まれている設問を活用して、今回、設定させていただいている。今後、1年置きにアンケート調査を実施し、この進捗を確認していくということで想定しています。対象は5,000部を配布、回収して、統計的妥当性が担保されるレベルまで回収したうえで集計しています。</p>
南澤委員	対象者というのはどのように抽出されていますか。
事務局	今回は旧町別、年齢別に無作為抽出で住民基本台帳から抽出したうえで5,000部を配布して、回収しているという形です。年齢は18歳以上の方を対象としています。
A 委員	結局、回答する市民の割合というのはあくまで主観で、市民がどう思うかということが現れるものだと思うが、見ている中で、もちろん数字に落とせる客観的なものもあるのですが、かなりのところ、アンケートによって、進捗状況というか、施策が目標達成できているかどうかを計っていくというのが、今回の基本計画なのかなと思う。では、その目標指標が達成できたら、最初の目指す姿になるのかというところの検証というのはきちんと行われていますか。
事務局	はい。そういう意味ではアンケートによる俯瞰的な部分だけで構成されているもの

	というのはおそらくありません。主観的な回答を基にしている指標と、ある程度客観的で、先ほど説明もありましたけど、比較的容易にその推移を把握できるものということで補正をしていく。せっかく今回のアンケートはかなり詳細に取っていますので、その推移を見たいという思いがあります。
会長	これは、結局毎年、実施するということは、アンケートはお金がかかると思うが、その辺りは覚悟をしてやるという形だということでおろしいでしょうか。
事務局	必要なアンケートに絞ってということにはなりますが、ここに挙げているものはやる必要があるということになります。
会長	よく市民モニターを募集して、その市民モニターで毎年の状況を把握する方法をやっている自治体もあるが、安芸高田市の場合は特に市民モニター制度は導入をされていないのですか。
事務局	再検討ということになっています。一時期はあったが、市民モニター制度はどこかの時点で、今はなくなっている。先ほどありましたように、市民の意見を集約する仕組みをつくりていきたいというのがありました。それが、現状では LINE を活用してといふ想定をしています。
会長	ありがとうございます。ということで、基本的には市民の満足度調査をする。ただ、その実施方法については、毎年 5,000 人を抽出してというアンケートでやるのか、その辺りのところは多分具体的なところは、今後、検討だと思います。少なくとも満足度調査をして、市民の方々の満足度をモニタリングしていくという方向ということです。
A 委員	政策目標②に、市民が暮らしやすいまちづくりが挙がっています。その中で下から 2 つ目にスポーツがある。スポーツはわかるが、同じように生涯学習という視点で見ると文化の振興というのも大事な視点なのかなと思う。施策分野の中に生涯学習や文化といった言葉が載っていないのですが、この辺りというのは、何かカバーをされているのでしょうか。
事務局	50 ページの観光のところに入っています。自然、文化、歴史等の地域資源を生かしたというところ。51 ページに歴史、文化資源の保存活用と発信というところになります。
A 委員	ただの神楽とか、毛利元就といったものはそういう文脈で語られるのかと思うのですが、生涯学習という視点で、例えばクラフトワークとか、音楽とか、ダンスとか、そういったものは文化活動のところがあるかと思うが、そういった生涯学習の視点での文化について何か取組はされているのかどうなのか伺いたいです。

事務局	入っていないです。
会長	感覚的には②番の市民が暮らしやすいまちづくりというところなのかなというところがある。今、教育がどっちかというと子どもたちの教育がメインになって、生涯学習という切り口からすると、たぶん②番。市民が暮らしやすいまちづくりみたいなところに入るのかなと思っている。そういう意味では、施策分野を教育というのを少し切り分けて、義務教育と生涯教育じゃないんですけど、そういうふうに切り分けるうまく入るのかなと。その辺り、整理をお願いします。
事務局	ありがとうございます。
C委員	55ページにプロモーションということがあるが、アウタープロモーションというところで、今、甲田地区、甲田中学、向原高校が力を入れているハンドボールについても、サンフレッ彻のみならず、何か切り口があるのではないかと思います。
会長	25ページのところに、ハンドボールというのは書いてある。どちらかというとサンフレッ彻が全面押しになっています。もうちょっとそこは後ろにもつなげてもいいという感じはします。
事務局	55ページのところで、プロモーションのところにアウタープロモーションが出るところがあり、ここは主に毛利と神楽とサンフレッ彻というところを立てていこうというので、この3つを挙げています。では、ハンドボールはどうなのかと、ほかのことはどうなのかというふうにここへ加えると、少しほやけてしまうかなというふうな感はあるので、アウタープロモーションのところにそういうことも含むような文言で入れる検討。全体を見て、委員の言われたことが反映できるように考えます。
D委員	大変充実した内容の方向に進んでいるという印象を受けました。基本計画構想の資料6の1ページ目ですが、ここに整理してあって、非常にわかりやすく書いてあり、一番下の横断的な政策手段ということで、公民連携の推進、デジタルの推進、プロモーションの推進、と書いてあるが、事例でいいますと、例えばデジタルの推進、デジタル化の推進とか具体的には、どんなふうにどこで使うのというのが、この活用で必要になってくるのだと思います。例えば資料5の9ページの下に、気づいたところだけで恐縮ですが、将来像、守っていきたい地域の暮らしの機能の維持確保と言っていて、上に書いてある一番下の、医療、移動手段等に生活に関するうえで必要不可欠な機能の維持確保を目指しますと書いてありますよね。この元データはどうやって取るかという話です。今、現状というのはどうなのかという話から、将来こういうふうにもっていこうというふうなことを政策にするときに、合意形成をしていくのではないかと思う。そうすると、例えば今の時代だと、デジタル化の推進の中に、例えばGISみたいな地

理情報システムを使って、医療サービスが、こういう病院にあります。開業医の先生はここにいらっしゃいますという、業務的な問題のほかにアクセス数がありますよね。これは、医療の手段ですね。要するにマーケティング上、医療サービスを提供する、向こうに届くというところは GIS で見られるようになっている。例えば買い物もそう。道の駅に買い物に行くときに、お太助ワゴンはどういうふうに走っているかというものを GIS に出てくる。そうするとデジタル化の推進というところで、データを集めることもあるけど、GIS という手法もある。こういうのが横断的な政策手段のなかで使えるじゃないかと思います。つまり質を調べたい。例えば今、防災でいざ、なんかがあったときに、ここにどういうふうに逃げ込めるかというところを普段、GIS で見られるわけですね。あるいは昔、中山間地域で救急医療を 15 分以内に救急車が届くようには、どの辺りは入られない、入ったらどうなるのか、ということは GIS ができるわけです。こういうこともやっぱり、今後の改善のポイントを示すことによって、市民の合意形成ができるのではないかと思います。もう一つ、例えば公民連携の推進ということであれば、これはもう具体的に PPP/PFI をやりますとか。SNS で合意形成の機会を持ちますとかということになっている。もう一つ、プロモーションの話で言いますと、プロモーションは、ホームページを市でつくりますよね。そうすると、非常に苦言を呈しますけど、ホームページを立ちあげて 1 年間のあいだに、あるいは 2 ~ 3 年たったときに、市の職員の人が自分のまちのホームページをどれくらいアクセスしているかは結構少ない。ましてや住民も少ない。つまり、ポータルサイト、玄関ということで、ポータルという玄関はインターネット上にはない。例えば会長がどっかでばったり出会った人に、今回、安芸高田のホームページのあそこは面白いぞといったところがポータルサイト。要するにポータルサイトというのは、SNS では外側にある。口コミとか、そういうフィジカルな部分にあって、初めてアクセス数が増える。

一般市民の方や、ましてや担当職員の方で、そのセクションにいない方がどれくらいそれをアクセスしているか、非常に疑問。報告書を書いて終わりみたいなことがよく言われている。そうではなく、プロモーションの推進というのは、この将来、これをどういうふうにプロモーションして、そのアクセスしてもらうかという、そういうことをちょっと欲張りで思っていました。それがほかの市町にないことなのかなと思います。

それから最後に、例えば 31 ページあたりの子育ての話の例でいきますと、31 ページの一番下の 2 行です。今、広島県もそうですし、全国的にネウボラという言葉が非常に一般化されていて、廃校を利用して 0 歳から、妊娠から 18 歳くらいまで子育て支援をシームレスにやっていこう。そういう拠点を整備しましょう。子ども家庭庁からお金をもらってやりましょうという自治体の傾向があります。『田舎暮らしの本』という雑誌を見てみると、全国で子育てしやすいまちランキングをやって、地域間競争のなかで、満足度のほかに子育てセンターが重要なポイントになってきます。

ところが、ここはすでにある子育て支援センターを拠点に、この子育て支援の拠点にということで、このセンターをどういうふうにもっていこうかという話は多分ま

	<p>だ検討されていないのか、あるのか、よくわからない部分がありました。県の施策も庄原とかそういうところではネウボラというので充実させよう、三原もあります。そこら辺りの充実がいるのかなと思います。言いたかったことは、デジタル化の話と、GISに基づいて、デジタルで集めて合意形成のベースにもっていくのはどうでしょうかということが一つあります。デジタルのところ、54ページのところに少し書き足せる部分とかはないかということだと思います。</p> <p>今、できますのが、庁内の情報プロセスというのと、それと地域に行政サービスの効率化の向上でサービスをする。住民サービスを上げていこうという、そういう観点の気づきになっています。</p>
事務局	今、D委員が言われた工程と、デジタルデータを使えるもので、庁内と庁外、市民の皆さんとが共有できるようなものをつくっていくとか、そういった観点で取り組むことがあるのではないかということでおろしいですか。
会長	多分、基本的にはオープンデータ化の話だと思いますので、オープンデータ化という言葉が入るのがまずマストだと思います。そのオープンデータのなかに、行政データとか空間データとかがあって、そこまで書くと細かくなるから、少なくともオープンデータ化という言葉がどっかに入れる必要があるのではないかという気がします。
事務局	ありがとうございます。そういったものを入れます。
E委員	<p>先ほど、B委員から話がありましたが、20年後のことでの観光客が増える。ここがそれまでに十分に増えるのか、疑問がでているというお話をしたが。20年後じゃない私は地域がどうなるか不安です。この吉田町においてはわかりませんが、私どもの高宮やら、美土里やら、あるいは甲田はどうかと。</p> <p>とにかく先で、このような計画を立てていただきても、人がいないとどうにもならない。そのためには安芸高田市が魅力のあるまちになって、人を増やす方法を考えてください。先ほどの子育てもそうですが、子どもたちがどんどん増えて、それも18歳以上になって町外に出ていくということでも後に地元に多く戻る。あるいは私どもが思うのは、やはりいろんな力が必要、田舎にあっても充実した状態にしていただきて、その中でとにかく人が、私ども、ここへおる方がどうかはわかりません。5年じゃない、20年先におられる方が今、幾人おられるか。ということを思います。とにかく身近なことを考えていただきたい。総合計画ということで、長期にわたっては確かに理想的なことが書いてありますが、とにかく今、私が思うは人口を増やせるような、人口が減らないような状況。私の案ですが、前にも言ったかわかりませんけど、高齢者でもいいです。とにかく田舎へ帰ってきてくれたら、田舎がにぎやかになる。そうした、あるいは移住でもなくもいいです。田舎へ行こう、安芸高田市に行こうというような形で、空き家を利用した、そうした動きで、人が増えるような動きとっていただく。そのうえで、このような理想的な計</p>

	画を実施していただければ、私たちにとっては、理想的な中身に、あるいはまちに発展するのではないかなと思います。よろしくお願ひします。
会長	ありがとうございます。多分、今の話は、このあとの戦略と、おそらく人口ビジョンのところで、少し詳しへに出てくると思います。
F 委員	本当にこの安芸高田市の説明書になっていくものだろうと。これを見て、今から来る人が、何人くるのかな、どうかと思いながら、考えていただいて、きっとこのようにいけば明るい未来が待っているのだろうと思います。せっかくなのでもっとまちに椅子があって、明かりがともって、夜、歩きやすく、座っておしゃべりができるなら、というまちがいいなと思っているなかで、今、ありましたが、本当に先のことよりも、今、このまちが楽しいという雰囲気づくりが重要だと思います。
〈第3次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）〉【資料7】	
〈安芸高田市人口ビジョン（案）〉【資料8】	
G 委員	<p>この総合戦略ですが、記憶違いだったら申し訳ないですが、この総合戦略で市としての課題を最初のころの説明でITやデジタル技術を活用して解決していくというような説明があったと思います。いろんな課題で活用していく、先進的な取組をしていくのだと思っていました。そういったことをこの総合戦略に載せることで国からの補助金を得て、より事業を推進できるというふうに説明を受けていたと思うのですが、ITやデジタル技術を活用したというところが見当たらない。ということがまず1つ。</p> <p>リーディングプロジェクト、これは具体的な施策を載せてくれたことですごいわかりやすくなったなと思いますが、まだちょっと漠然としているなというところがあります。それぞの具体的な施策で挙げていただいているところにそれぞれ目標値を入れていただいたらより具体化されるのかなというふうに思っています。その目標値を入れることが、もしかすると、少し細かくなりすぎて、無理なのかなというところがあります。そういったところをどのように考えられるかというところを聞かせていただけたらなと思います。</p>
事務局	<p>そのとおりです。まずデジタルの件で、その議論を始めたちょうど最初のころというのが、この総合戦略がデジタル田園都市国家構想総合戦略という立て付けのものをつくりましょうということでスタートしたので、そのデジタルを考えることが総合戦略をつくるうえでは、必須だった。なので、そういうことで説明をしていた。今現在のところでいきますと、デジタルと絡めるというのが必須ではなくなり、関係がなくなってしまいました。ただ、それでこういうかたちの関係人口を作っていくというところに主眼を置いています。</p> <p>ただおっしゃるとおり、先ほど、皆さんにご議論いただいた基本計画のところでは施策横断の取り組みとしてデジタルを挙げております。同じ内容をこの総合戦略の</p>

	<p>ところに施策横断というかたちで入れてもいいのかなと考えていましたので、大きく新しくつくるというふうなことにはこの時点ということもありますし、そもそも必須ではなくなったというところで、あまり書き込むことはしないかなと思いますが、ちょっと書きぶりも含め、検討します。</p> <p>リーディングプロジェクトの数値目標については、これだけで転入者数がいくら増えるとかというのは、少し細かいのと、あとはそこまで建て付けが分かれていなかったというところもあるが、ここでこのリーディングプロジェクトを何年後に、例えば、イベントを何回します的な施策の実施側の数値目標については、示していく余地はあるのかとも思っていますので。ただ、これは担当課との調整もありますので、その検討次第ということにさせていただけたらと思います。</p> <p>今後の数字を把握して推移を追いやすいようにということで、実は事務局としてはあまり細かく設定をしないほうがいいのではないかという考えがあります。一応、追加した方がいいなという数字があれば、個別のところで入れるかもしれません、それは各事業にということにはしない。参考にさせていただいてその指標として挙げているものに追加する必要があるかどうか検討します。</p>
会長	<p>このリーディングプロジェクトについて、正直に申しあげて、本当にそうなのかということがあります。例えば基本目標1、若者に選ばれるまちづくりで、リーディングプロジェクトが企業誘致の促進。これは何時代の話をしているのだろうなというのが正直なところです。もっと安芸高田の強みを伸ばすだと、そういうリーディングプロジェクトにここはなるべきなんじゃないかなと思っています。そういう取組をもっともっと伸ばしていくことが私はリーディングプロジェクトで位置付けられるべきであって、例えば33ページの基本目標4、自助・互助・共助・公助のまちづくりで、書いてあるのが地域振興会の新たな仕組みの構築。もちろん支援型の地域振興会をなんとかしないといけないというのは、もちろんそうなのだが、もう少し目的型の、今回、3月にシンポジウムを開催し、地域おこし協力隊の方でっこう面白い方がたくさんいて、ユニークな取組をしている方もおられるので、そういう従来型の支援の地域振興会をなんとかするとともに、やはりそういった目的型で新しいことに取り組んでいることに対しても、もう少しなんかするみたいなところが入ってきてもよいのではないかという気がします。そのあたり、どのようにこのリーディングプロジェクトは詰めていったのかというのがわからないので、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>リーディングプロジェクトを選んでいくにあたっては、その前のところの、基本目標1、2、3、4というふうに挙げているところをまず作り、各課とも協議をした中で、これが重要だという事例を抜き出して入れた形になっています。</p>
D委員	<p>非常にまじめに作ったという感じがします。リーディングプロジェクトというのはもう少しわくわく感があるような表現が欲しいなというのがないかという気がして</p>

	<p>いる。そのわりには、例えば30ページでいくと、企業誘致という言葉があって、定番のプロジェクトがありますが、一方で企業誘致の促進の箱の下の3行目にはLABVの方法がありますが、これは言い過ぎではないか。</p> <p>つまり、これを読んだときに、プロジェクトがこの手法が使える候補地はもう用意してあるのか、と言いたい。この手法で用意しようと思ったら、安芸高田市のどこの場所なのか、と言いたいが、これは難しい。今、山陽小野田市もやっていたが、どうなのか、儲かっているのかと聞くと、うーんと。だが国交省はこのやり方は非常にPPPの中でイノベイティブだということで表彰しました。だが、ここで書くものかという感じです。むしろもっと上の、若者に選ばれるまちづくりのところを、もう少しづくわく感のあるような表現にしてすると、むしろ若者に選ばれるのだったら、どこかいろいろな場所で、大きなコンサートをしたほうがみんながわいわいして、交流人口も増えたりするくらいなので。その辺りの書き方がちょっと地味すぎるのではないかという気がします。</p>
A委員	30ページになるが、かっこ2の途中です。駅、拠点周辺で若者にとって魅力的な雇用の受け皿を創出し、にぎわいを生み出していくというふうに書いてありますが、駅は芸備線の駅が3つある。その拠点というのは、これは何を指しているのでしょうか。
事務局	拠点は例えば道の駅や観光施設や、それから人が集まる施設という意味での拠点ということで広く言えるように書いています。
A委員	そこで若者にとって魅力的な雇用の受け皿を創出するというのは、誰が創出するのでしょうか。
事務局	市または民間事業者です。例えば道の駅と書いたのはチャレンジショップをという具体例がある。道の駅や観光施設というのを軸でというようなところがこの議論としてありました。また、駅あとはサテライトオフィスなどの整備をしたところもありますので、そのようなところの空施設、といったところを利用したいと考えています。
A委員	にぎわいを生み出していくことが目的であり、若者に選ばれるところをつくるということですが、駅と名のつくところは3つ駅があり、拠点も今、道の駅ということだったのだが、分散していくようになるのかと捉えられるが、その辺りもあえて選択せずにということですか。
事務局	はい。そうです。 意図としては例えば吉田中心部に集中、集約できるということでしょうか。
A委員	選択と集中は必要であり、そういう局面ではないかと感じています。あちこち誘致

	をしていき、取りあえずはどこかに集まってのほうが、にぎわいが生まれ、そこを起爆剤に、人が集まつくるようになったらまた違う拠点に話がいくのかと思う。戦略としてどういうものを持っているのかというの、聞きたいです。
事務局	ここは既存の施設である程度人が集まっている、また、なる可能性があるというふうなことなので駅としています。あとは新しくということもあります、空き施設を活用というところもあり、そうすると少し分散する形になると思います。
A 委員	31 ページのスマートコンセッションという言葉の定義について教えてください。
事務局	地元企業や人材と連携して、官民連携の事業を立ちあげるという意味です。市外からの企業に頼らないというイメージとして書かせていただいたが、先ほどもあったように、そのような専門的な用語ではなく書き方を調整したいと思います。
A 委員	関係人口コーディネーターの育成、それから次のページは地域学校協働活動コーディネーターの育成とあるが、これはどういう立ち位置なのか。行政が育成するだろうと思うが、地域おこし協力隊みたいなかたちなのか。そうなってくると 3 年後はどうなってくるのか。その辺りの考えをお願いします。
事務局	今のところは、委員がおっしゃった地域おこし協力隊のようなかたちを想定できるかと。具体的にはまだそこまで考え詰められていません。
A 委員	地域おこし協力隊で登用して、それが 3 年間はそれで成り立つと思うが、その後のことですよね。そういったところで、新たな事業を展開して、行政が雇用し続けるのか。そういうところまで考えないと非常に場当たり的な施策になるのかなと思うが、そのあたりはいかがか。
事務局	今後検討します。こういう役割の方がいらっしゃらないとできないので、ここに挙げたうえで、3 年間のなかで考えていきます。
F 委員	基本目標 2 の第 2 のふるさとづくりの意見です。空き家等を利用して子育て世帯のお試し暮らしというのがあるが、その空き家を古民家風にし、若い人を取り入れるという方法があるのではないか。その辺りはどうでしょうか。
事務局	空き家がこんなふうに魅力的な姿になるのだという形で利活用できるようにしたい、おっしゃるとおりです

以上